

平成の大合併は地方市に何をもちたらし、何を奪ったのか 佐渡市誕生八年目

平成の大合併は平成11年に始まり、平成20年に終了した。その結果、合併協議会に参加した自治体が2,479にのぼり、市町村数は3,232から1,727に減少した。合併に駆り立てた要因は何だったのか。地方分権一括法による「合併への大号令」が最大の要因だが、増高する国債残高やバブル後の逼迫した国家財政、進行する過疎化と地方自治体の財政不安等が強く影響したことは間違いない。そして今、大合併とその後の三位一体改革で、地方行政と財政は大きな変革が求められている。

平成の大合併で懸念された3つの課題

合併を進める過程で3つの問題点が明らかになってきた。

第一は、「依存心」の肥大化である。合併市町村を対象とした意向調査では、合併理由の第一は「行財政の基盤強化のため」で86.8%、第二は「合併特例の優遇措置」で47.5%である。合併の動機は財政事情が主で、そのため多くの自治体が合併特例法の優遇措置に群がったというのが実態だ。

第二は、「顔の見える・きめ細かなサービス」が遠のいたことである。行政区域が肥大化すると住民の声が届きにくくなる。市役所が遠くなり「温かみがなくなった」という市民の声が多いのだ。総務省は合併メリットとして「サービス水準は高位に、負担は低位に調整される」といつてきた。しかし現実には、公共サービスの低下や負担の増加が進行した。

第三は、「サービスの格差拡大」である。国は当初「合併は中心部だけでなく、周辺部にも配慮した町づくり計画が作られる」としていたが、合併進行の中で「市町村合併は究極の行財政改革である」に変化した。実際に、経費削減や歳出のカットによって地域や市民各層に格差が生まれている。

では、合併後の自治体はどう体制を立て直すべきなのか。

自治体財政を確立し 理念と誇りを取り戻せ

まずは、合併15年以降の財政計画をしっかりと整備することである。普通交付税は、合併から10年間は「算定替」で合併前の合計交付税が措置されるが、11～15年間は算定替を年々減らし、16年目から一本算定となる(右表)。

佐渡市でも平成16年度予算534億円から、平成31年には309億円(対比57.9%)になるとの推定だ。そのために人員削減や部長制廃止などの組織改革や、小中学校や公共施設の統廃合等の歳出削減に取り組んできた。しかし、こうした行政のスリム化はサービスの低下を招き、市民からの不満の声も多くなる。住民に配慮した政策選択が必要である。

また行政改革の連続で、各自治体は自らその理念や将来展望を語る余裕さえなくしている。合併が終わった今こそ、自治体に理念と誇りを取り戻すことが必要だ。そのためには、更に広く市長の考えを市民に周知することが必要である。

既に佐渡市はこうした厳しい財政状況のなか「佐渡市将来

ビジョン」を発表した。その中に「成長力強化戦略」が打ち出されている。離島佐渡の強みを生かした一次産業の強化策で、その中心となっているのが「朱鷺と暮らす郷米^{さとまい}」である。販売も堅調で一定の成果があがっている。しかし一方、最大の課題である就業機会の創出や企業誘致、周辺地域の生活基盤整備など、改善されない課題も残されたままである。

高野市長は「新市建設計画」策定の以降、「佐渡市将来ビジョン」「都市計画マスタープラン」、そして「佐渡市総合計画」と、次々計画・プランを打ち出してきた。今後はこれらの成果が得られるよう、着実に実行に移すことである。

佐渡市将来ビジョンによる予算規模の推移

<歳入予算>

単位:百万円

	H21	H23	H25	H27	H29	H31
予算規模	40,800	44,900	41,300	35,000	32,800	30,900
1合併特例債	1,610	6,196	4,245	0	0	0
2地方交付税	20,100	20,991	20,658	18,899	16,185	14,555
3市税	5,497	5,379	5,284	5,190	5,095	5,000
4その他	13,593	12,334	11,113	10,911	11,520	11,345

<歳出予算>

単位:百万円

	H21	H23	H25	H27	H29	H31
1合併特例債事業	2,062	8,104	5,078	0	0	0
2成長力強化事業	0	300	300	300	300	300
3義務的経費	18,797	18,065	16,966	15,970	14,992	13,740
4投資的経費	4,326	3,636	3,366	4,980	4,900	4,820
5その他の経費	15,615	14,795	15,590	13,750	12,608	12,040
(地方債残高)	(54,145)	(55,254)	(56,424)	(49,363)	(43,634)	(39,108)

議会の内・外 こぼれ話

市長・市議会議員の同時選挙が近づいた。そのためか議員同士の会話に選挙の話題が最近多く聞かれるようになってきた。

特に昼食休みには会話が弾み、休憩室はヒソヒソ話で盛り上がっている。話題の中心は市長選挙で「A議員が市長選に出るらしい」などと、噂話がまことしやかに入ってくる。そういえば、貰った派手な大き目の名刺には、市長選とおぼしき公約が書かれていた。本人の決断は定かでないが、既に名刺は歩いている。

中には、A議員に対して「俺が出ればお前より多く票がとれるだから止めとけ」と直接いった^{もさ}猛者もいるらしい。議員とは^か斯くも自信過剰な集団なのかと、可笑しくな^{おか}ってそして納得した。

やがて春がくる、議員の足音もさらに^{きぜわ}気忙しくなるはずだ。